

食文化創造都市にいがた推進計画 関連事業進行管理表(令和元年度)

【評価凡例】A:目標を上回った B:おおむね目標通り実施できた C:目標を達成できなかった D:事業を実施しなかった

将来像1 食を通じて「人」がつながり活気あふれる元気なまち(施策1,2,3) **事業数: 24**

施策1 食への理解の促進 **事業数: 12**

ID	所属	事業名	概要(目的・内容)	工程		成果指標名	令和元年度			令和2年度	開始/終了年度 (計画期間内)
				令和元年度	令和2年度		目標	実績	評価	目標	
1	食と花の推進課	料理教室「シェフの日」	生産者・料理人・消費者が交流し、食材のおいしさ等を分かち合い、食への理解を深めることを目的に、市内の飲食店が市内の生産者が作った食材を使用して実施する料理教室を開催します。	(実施未定)	(実施未定)	実施店舗数	(ぐるなびの事業計画に基づく)	未実施	D	—	R01終了
2	食と花の推進課	料理人×生産者マッチングツアー	販路拡大を目指す生産者と市産農産物の活用を図りたい料理人のマッチングを図るため、料理人を対象とした圃場見学ツアーを実施します。	→	飲食店の経営状況に配慮したマッチングを実施	参加者アンケート「今後このような料理人と農業者の交流イベントがあったら参加したいか」のうち「参加したい」の割合	80%	67%	C	コロナウイルスの影響により目標設定が困難。	H30開始
3	食と花の推進課	若手料理人の育成支援	本市の食のレベルアップを図るため、料理人の技術発表の場や本市の食文化を理解し、生産者と交流する機会を創出するなど若手料理人の育成を支援します。	1.[新潟市若手料理人コンテスト2019]の実施 2.研修支援補助金制度の実施	1.[新潟市若手料理人コンテスト2020]の実施 2.研修支援補助金制度の実施	1.コンテスト参加者数 2.補助金交付申請件数	1.60名 2.4名	1.16名 2.1名	C	1.16名 2.1名	
4	学校支援課、食と花の推進課	新潟発わくわく教育ファーム推進事業「『アグリ・スタディ・プログラム』の推進」	本市の誇る農業や食に対する理解を深め、ふるさとへの愛情や誇り、生きる力を培うとともに、農業を活性化するため、学習と農業体験を結び付けた体験プログラムを実施します。	→	継続して実施	1.「アグリ・スタディ・プログラム」に基づく学習を実施している学校の割合 2.アグリ・スタディ・プログラムに基づいてアグリパークに学習した小中学生のうち、アンケートで自然や農業への関心が高まった小中学生の割合	1 100% 2 100%	1 100% 2 -	A	1 100% 2 アンケート項目の検討	
5	農村整備・水産課	浜で遊ぼうin南浜 大河の感謝祭in信濃川	地元水産物の紹介と魚食普及のため、地引網体験・漁船乗船体験などを開催します。また、信濃川で捕れるサケなどを通じて川の恵みに感謝するため、サケのつかみどり・採卵実演などを実施します。	→	コロナウイルス感染拡大防止のため「浜で遊ぼうin南浜」は中止	参加者数	浜で遊ぼうin南浜 2500人 大河の感謝祭 350人	浜で遊ぼうin南浜 2300人 大河の感謝祭 350人	B	大河の感謝祭 350人	
6	食と花の推進課	地産地消推進事業	地産地消食材を積極的に販売・活用し、PRする小売店・飲食店などを支援するため「地産地消推進の店」を認定します。また、地産地消食材の良さを知ってもらい「地産地消推進の店」の利用促進を図るキャンペーンを実施します。	・地産地消推進の店の認定 ・地産地消キャンペーンの実施	・地産地消推進の店の認定	地産地消推進の店新規認定数(店)	15件	15件	B	15件	
7	食と花の推進課	料理教室等	本市で生産される米や食材を活かした日本型食生活を柱とする「にいがた流 食生活」を推進するため、季節の料理教室を実施します。	(指定管理による運営に移行)	継続して実施	拠点施設における食育の実施を促す事業の実施回数	100回	95回	C	100回	
8	食と花の推進課	食育マスター制度	地域での食育活動を広げるため、食育に関する優れた知識、技術、技能及び経験を有する人材を「新潟市食育マスター」として登録し、学校・市民団体などの要請に応じて、食育活動の指導者として派遣します。	継続して実施	派遣制度から紹介制度に変更	食育マスター派遣回数	180	未実施	D	—	R1から制度変更
9	西区農政商工課	農業体験教室	一般社会人などを対象に、生産者の圃場での農業体験教室を通じて、都市部住民の農への理解を深める。 ・入門コース(全6回)	事業実施	新型コロナウイルスの影響により中止	農業体験教室の実施回数	全6回実施(1コース)	全6回実施(1コース)	B	新型コロナウイルスの影響により中止	
10	西区農政商工課	いもジェンヌの生産拡大及び商品開発に関する支援	西区内の砂丘地で生産されるさつまいも「いもジェンヌ」の需要増大への対応やブランド化を目的に、生産拡大や商品開発の支援などをいもジェンヌ農工商連携協議会を中心に推進します。	・生産拡大に係る取組 ・消費拡大に係る取組 ・販路拡大に係る取組 ・商品等の研究開発に係る取組 ・地域活性化に係る取組	・生産拡大に係る取組 ・消費拡大に係る取組 ・販路拡大に係る取組 ・商品等の研究開発に係る取組 ・地域活性化に係る取組	作付面積の増加	作付面積21.0ha	作付面積19.97ha	C	市内及び首都圏等向けPR実施回数(15回以上)	
11	西区農政商工課	小学校との食育連携	子供たちへの食育と地産農産物の消費拡大を推進するため、区内の希望小学校が収穫体験、料理教室、生産者講話の3つのメニューから希望講座を選択し、授業を実施してもらう。	3つのメニューから、各校が希望するいずれか1つの講座を実施	新型コロナウイルスの影響により、料理教室を中止 2つのメニューから、各校が希望するいずれか1つの講座を実施	実施希望全校での実施	実施希望校全校での実施	希望全校で実施 15校	B	実施希望校全校での実施	H29開始
12	鳥屋野地区公民館	新潟いいね！～ニイガタ美味しいものぞんまい～	転勤、転入者を対象に、人とのつながりを作ってもらふことを目的として、新潟市の代表的な「食」をテーマに、地域の方から作り方を教えてもらったり、見学したり、体験したりしながら、新潟市のことを紹介する講座として開催する。	全2回を2会期(夏編・秋編) ・笹団子づくり 見どころ紹介 ・枝豆収穫体験(夏編) いも(いもジェンヌ)掘り体験(秋編)	対象を市民とし、新潟の食の魅力再発見とした。 第1会期 コロナウイルス感染拡大防止のため枝豆収穫体験のみ実施 第2会期 実施予定	参加申込組数	各期10組	第1会期－3組 第2会期－7組	B	第1会期10組 第2会期6組	H30開始

食文化創造都市にいがた推進計画 関連事業進行管理表(令和元年度)

【評価凡例】A:目標を上回った B:おおむね目標通り実施できた C:目標を達成できなかった D:事業を実施しなかった

施 策2 食を生かした健康づくり				事業数:					5		
ID	所属	事業名	概要(目的・内容)	工程		成果指標名	令和元年度			令和2年度	開始/終了年度
				令和元年度	令和2年度		目標	実績	評価	目標	
13	保健所健康増進課	食生活改善推進委員養成講座・研修会	生涯における健康づくり活動を、食を通じて地域で推進している食の健康ボランティアである「食生活改善推進委員」を養成・育成するため、養成講座および研修会を実施します。	→	→	食育の推進に関わるボランティアの数	480人	459人	C	460人	
14	食と花の推進課	新潟市健幸づくり応援食品認定制度(新潟市健幸づくり応援食品認定事業)	市民の健康維持・増進および市内食品のブランド化、高付加価値化の実現を図るため、機能性に関する科学的な報告がある成分を含む食品や、健康づくりに配慮されている食品に対し、市独自の認定を付与します。	→	→	機能性食品認定件数	2件	2件	B	2件	
15	農業活性化センター	農産物高付加価値化推進事業	農業者の所得向上や農業振興を目的に、付加価値の高い商品開発を進めるため、農産物に含まれる様々な機能性成分や有用形質に着目し、科学的根拠を裏付けとした調査研究を行います。	→	→	地元産品の成分分析・調査、製品化支援	4件	7件	A	4件	
16	保健所健康増進課	ちよいしおプロジェクト	減塩と野菜摂取の普及・啓発の実施。市民、関係機関への周知、学校における減塩教育、飲食店・販売店と連携した取り組みを実施。	→	→	減塩を意識しているし、できていると思う者の割合(できている、だいたいできている)	51% (R1年度より指標のとり方を変更。H30年度現状値48.2%)	49.2%	C	51%	H30開始
17	食と花の推進課	食と健康フォーラム	「食と健康」について広く市民に発信することとを趣旨とし、学術面の成果の還元と食と健康に対する意識を深め健康増進に寄与することを目的にしたフォーラムを開催します。	→	→	フードフォーカsinにいがたの開催	食と健康フォーラム開催	食と健康フォーラム開催	B	食と健康フォーラム開催	R元年「フードフォーカsinにいがた」より分離

施 策3 食文化の次世代への継承

施 策3 食文化の次世代への継承				事業数:					7		
ID	所属	事業名	概要(目的・内容)	工程		成果指標名	令和元年度			令和2年度	開始/終了年度
				令和元年度	令和2年度		目標	実績	評価	目標	
18	食と花の推進課	地場産学校給食推進事業	学校給食における地場農産物の利用拡大とともに食育の推進を図るため、米飯給食において地場産の環境保全型栽培コシヒカリ100%を供給し経費の一部を助成します。また、地域の実情に応じたモデル事業を実施します。	→	→	学校給食における地場農産物(野菜・果物・きのこ)の利用割合	28.5%	25.2%	C	29.0%	
19	食と花の推進課	レシピ集の活用	郷土料理や行事食を含む新潟の家庭料理を次の世代へ伝えるため、料理教室で使用したレシピを抜粋し、まとめた「伝えたいにいがたの味」などのレシピ集を活用します。	→	→	レシピを活用した取り組み	15回	16回	B	15回	
20	農業活性化センター	農業活性化研究センターにおける研究(伝統野菜の維持・保存)	生産現場における栽培技術上の課題解決に向け、野菜・花き・果樹の栽培実証試験などを実施し、その中でナスやカブなどの伝統野菜の維持・保存を行うとともに、活用に向けた調査・研究を進めます。	→	→	大学等との共同研究数	5件	8件	A	5件	
21	食と花の推進課	料理教室等【再掲】	本市で生産される米や食材を活かした日本型食生活を柱とする「にいがた流 食生活」を推進するため、季節の料理教室を実施します。	(指定管理による運営に移行)	継続して実施	拠点施設における食育の実施を促す事業の実施回数	100回	95回	C	100回	
22	西区農政商工課	いもジェンヌの生産拡大及び商品開発に関する支援【再掲】	西区内の砂丘地で生産されるさつまいも「いもジェンヌ」の需要増大への対応やブランド化を目的に、生産拡大や商品開発の支援などをいもジェンヌ農工商連携協議会を中心に推進します。	→	→	作付面積の増加	作付面積21.0ha	作付面積19.97ha	C	市内及び首都圏等向けPR実施回数(15回以上)	
23	西区農政商工課	小学校との食育連携【再掲】	子供たちへの食育と地場産農産物の消費拡大を推進するため、区内の希望小学校が収穫体験、料理教室、生産者講話の3つのメニューから希望講座を選択し、授業を実施してもらう。	3つのメニューから、各校が希望するいずれか1つの講座を実施	新型コロナウイルスの影響により、料理教室を中止 2つのメニューから、各校が希望するいずれか1つの講座を実施	実施希望全校での実施	実施希望全校での実施	B	実施希望全校での実施	H29開始	
24	中央区地域課	みそ作りカリキュラム	北前船と密接に関連する伝統的産品である発酵食の魅力を見直し、次世代への普及促進とともに産業の振興を図る。(区内の小学校を対象に地域の歴史や発酵食との関わりを学ぶ総合学習の一助として実施)	→	新型コロナウイルスの影響により中止	区内製造発酵食購入者増加率	10.0%	13.0%	A	新型コロナウイルスの影響により中止	R01開始

食文化創造都市にいがた推進計画 関連事業進行管理表(令和元年度)

【評価凡例】A:目標を上回った B:おおむね目標通り実施できた C:目標を達成できなかった D:事業を実施しなかった

将来像2 食を通じて「地域」が繋がりに新たな交流を生み出すまち(施策4,5,6,7) 事業数: 24

施策4 地域の魅力の向上 事業数: 10

ID	所属	事業名	概要(目的・内容)	工程		成果指標名	令和元年度			令和2年度	開始/終了年度
				令和元年度	令和2年度		目標	実績	評価	目標	
25	北区産 業振興 課	キテ・ミテ・キタク とまとキャンペーン	北区の豊栄地区で生産されている「豊栄トマト(品種:桃太郎)」と濁川地区で生産されている「濁川トマト(品種:麗容)」の消費拡大を目的に、ラジオやホームページを活用したPR活動を行います。	→	→	広報媒体での放送・掲載回数	ポスター・ポップの作成、ラジオ広報6回	ポスター・ポップの作成、ラジオ広報6回	A	ラジオ広報6回	
26	秋葉区 産業振 興課	満願寺稲架木並木を 活用した観光交流事 業	交流人口の拡大および観光資源としての景観をつくるため、本市の指定文化財である秋葉区満願寺稲架木並木を舞台に、春には手植えによる田植え体験、秋には手刈りによる稲刈りおよび稲架掛け体験イベントを開催します。	・田植え体験イベントの開催 ・稲刈り、はさかけイベントの開催 ・区およびJAPRブース設置による情報発信、イベントPR写真募集 ・事業およびはさかけ米の活用について見直しを検討	・田植え体験イベントの開催(中止) ・稲刈り、はさかけイベントの開催(未定) ・区およびJAのPRブース設置による情報発信 ・JA主催の収穫体験との連携を検討	稲刈り、はさかけイベント参加者数	200名	185	B	稲架木並木の再現	
27	農村整 備・水 産課	浜で遊ぼうin南浜 大河の感謝祭in信濃 川【再掲】	地元水産業の紹介と魚食普及のため、地引網体験・漁船乗船体験などを開催します。また、信濃川で捕れるサケなどを通じて川の恵みに感謝するため、サケのつかみどり・採卵実演などを実施します。	→	新型コロナウイルス感染拡大防止のため「浜で遊ぼうin南浜」は中止	参加者数	浜で遊ぼうin南浜 2500人 大河の感謝祭 350人	浜で遊ぼうin南浜 2300人 大河の感謝祭 350人	B	大河の感謝祭 350人	
28	農林政 策課	農家レストランの設置	国家戦略特区の規制緩和を活用し、農用地区域に農家レストランを設置	・開設済みの農家レストランに対するフォローアップ ・新規開設者の掘り起し ・市内外に向けた農家レストランPR	・開設済みの農家レストランに対するフォローアップ ・新規開設者の掘り起し ・市内外に向けた農家レストランPR	農家レストラン設置数(累計)	4店舗	3店舗	C	4店舗	
29	食と花 の推進 課	農林漁業・自然体験 の受入	農村と都市が近接する新潟市の特性を生かし、農林漁業・自然体験の受入メニューを拡充することで、地域の農業・農村への理解を深め、交流人口の拡大や生産者と消費者の相互の理解促進・農業・農村の活性化を図る。	→	→	農林漁業・自然体験の受入団体数	20団体	22団体	A	22団体	
30	北区産 業振興 課	収穫体験農園	北区で生産される農産物の収穫体験を通じ、生産者と消費者の交流が生まれることで、北区の農業の活性化と地域に根差した食育の推進を図ることを目的とする。	→	→	申込者数	定員を上回る (50人)	トマト:定員を上 回った(185名)	A	定員を上回る (50人)	
31	江南区 産業振 興課	江南区「食」のブラン ド強化・発信	江南区に多数存在する優れた農産物・加工品が地域ブランドとして価値を高めていくために、梅をはじめとする地域の特産農産物を活用した新たな加工品開発や販売PRなどの展開を進めます。	/	区農産物を活用した加工品開発・PRの支援	加工品製品化数	/	/	/	2品目(累計12品目)	R02開始
32	西区農 政商工 課	農業まつり	西区の特産品である「新潟すいか」「大根」等の収穫期にあわせ農業まつりを開催し、地場産農産物の周知と消費拡大を図る。	・すいかまつり7/6 ・茶豆まつり8/中旬 ・秋の収穫祭10/中旬	新型コロナウイルスの影響により全ての農業まつりを中止	すいかまつり、新米・大根・ねぎの収穫祭の来場者数	農業まつり3回開催	3回開催	B	中止が決定した農業まつりに代わるキャンペーンの実施	
33	西区農 政商工 課	いもジェンヌの生産拡 大及び商品開発に関 する支援【再掲】	西区内の砂丘地で生産されるさつまいも「いもジェンヌ」の需要増大への対応やブランド化を目的に、生産拡大や商品開発の支援などいもジェンヌ農商工連携協議会を中心に推進します。	・生産拡大に係る取組 ・消費拡大に係る取組 ・販路拡大に係る取組 ・商品等の研究開発に係る取組 ・地域活性化に係る取組	・生産拡大に係る取組 ・消費拡大に係る取組 ・販路拡大に係る取組 ・商品等の研究開発に係る取組 ・地域活性化に係る取組	作付面積の増加	作付面積21.0ha	作付面積19.97ha	C	市内及び首都圏等向けPR実施回数(15回以上)	
34	食と花 の推進 課	新潟の食と花の PR事業	ねぎをテーマに全国の産地が一 堂に会しPRを行う。全国ねぎサミット2018にいがたの開催や、地産地消推進店の認定、新潟市食と花の銘産品を中心とした本市の魅力ある農産物の魅力を発信を通じて、重点的な園芸品目の消費を喚起することで、持続的な農業経営基盤の強化を図ることを目的とする。	○地産地消推進店の認定・周知 ○SNSを活用した市産農産物の情報発信	→	食と花のPR情報発信項目数(市報、プレスリリース、SNSを用いた発信)	80回	100回以上	A	120回	H30開始

食文化創造都市にいがた推進計画 関連事業進行管理表(令和元年度)

【評価凡例】A:目標を上回った B:おおむね目標通り実施できた C:目標を達成できなかった D:事業を実施しなかった

施 策5 ガストロノミーツーリズムの構築				事業数:					5		
ID	所属	事業名	概要(目的・内容)	工程		成果指標名	令和元年度			令和2年度	開始/終了年度
				令和元年度	令和2年度		目標	実績	評価	目標	
35	食と花の推進課	レストランバスなどを活用したコンテンツ開発	レストランバスを活用し、美しい自然、歴史的景観、伝統芸能などの地域資源と農業体験、酒蔵見学などのさまざまな体験メニューを組み合わせ、本市の食文化を一体的に体験できる新しい観光コンテンツを開発します。	人材育成、コンテンツ開発、シビックプライドの醸成	コロナウイルス感染拡大防止のため全運行中止	レストランバス延べ乗車人数	380人	324人	B	事業中止	
36	広域観光課	魅力発信・誘客推進事業(着地型観光の充実)	本市への誘客につなげるため、本市の食、酒、農業、みなとまち文化等の本市の個性を生かした着地型旅行商品の企画・造成を支援します。	→	→	延べ宿泊者数	2,255千人泊	2,351千人泊	B	・令和2年度は、新型コロナウイルス拡大の影響で当該目標を設定できない。	
37	広域観光課	観光客おもてなし態勢促進事業	本市への誘客につなげるため、観光客が快適に滞在・行動できるおもてなし態勢を整備します。	→	→	延べ宿泊者数	2,255千人泊	2,351千人泊	B	・令和2年度は、新型コロナウイルス拡大の影響で当該目標を設定できない。	(1)新潟ストーリープロジェクト…H31年度終了 (2)着地型観光コンテンツ及び外国人対応の強化…継続
38	観光政策課	魅力発信・誘客推進事業(観光コンテンツ、旅行商品等の情報発信)	食と旅行を嗜好するターゲットに向け、ガストロノミーツーリズムなど新潟の個性を生かした観光コンテンツや地理的優位性を効果的に情報発信し、誘客を促進します。	→	→	延べ宿泊者数	2,255千人泊	2,351千人泊	A	・令和2年度は、新型コロナウイルス拡大の影響で当該目標を設定できない。	
39	産業政策課、ニューフードパレー特区課	米と酒を中心としたプロモーション事業	本市の食文化のPRを通じ、本市への誘客を図るとともに、市産農産物の国内外での新規需要を創出するため、米と酒を中心とした市産農産物・食文化のプロモーション映像作成やイベント開催によるプロモーションを展開します。	→	→	新潟市産食材輸出促進アプローチ件数 <H30年度～> 新潟市産食材販路拡大アプローチ件数(件)	海外への販路拡大支援企業・団体数(社・団体) 92以上 ※組織改編により指標変更	海外への販路拡大支援企業・団体数(社・団体) 69 ※No.39, 44, 45, 46合計で	C	海外への販路拡大支援企業・団体数(社・団体) 69 ※No.39, 44, 45, 46合計で	
施 策6 他都市への発信と都市間連携				事業数:					4		
ID	所属	事業名	概要(目的・内容)	工程		成果指標名	令和元年度			令和2年度	開始/終了年度
				令和元年度	令和2年度		目標	実績	評価	目標	
40	観光政策課	特産品・土産品の振興	市産品などを全国で紹介・宣伝し、販路の拡大を図るとともに、誘客につなげるため、新潟市名産会などと連携し、全国の百貨店等で「観光と物産展」を開催し、本市の観光や食の魅力を発信します。	→	→	観光入込客数	22,200千人	18,648千人	C	令和2年度は、新型コロナウイルス拡大の影響で当該目標を設定できない。	
41	西区農政商工課	特産農産物のPR・情報発信	「くろさき茶豆」、「いもジェンヌ」、「新潟すいか」など特産農産物の知名度向上、消費拡大およびブランド化の推進を図るため、首都圏を中心に県内外でのPR活動を実施します。	首都圏等を中心とした県内外での情報発信・PR	市内及び首都圏等向けPR	首都圏等向け活動実施回数	18回	23回	A	市内及び首都圏等向けPR実施回数(15回以上)	
42	食と花の推進課	地産外商推進事業	農産物販路拡大アドバイザーを活用し、販路拡大を支援するほか、販路拡大に意欲的な生産者の発掘・育成を目的に、セミナーを開催します。また、さらなる販路拡大のため、産地間連携出荷の拡大や大都市での販促活動を実施します。	・販路拡大アドバイザーとの連携 ・県や関係者と連携した大都市でのPR	・販路拡大アドバイザーとの連携 ・県や関係者と連携した大都市でのPR	農産物販路拡大支援団体数 <H30年度～>新潟市産食材販路拡大アプローチ件数(件)	国内40件	国内40件	B	新型コロナウイルス拡大の影響で目標設定が困難	
43	食と花の推進課	豊かな食の郷土づくり研究会への参加	UNESCO食文化創造都市である山形県鶴岡市が主体となって実施する「豊かな食の郷土づくり研究会」へ参加し、食文化を切り口にした農林水産、商工観光等に取組む事例を関係自治体間で共有、食文化によるまちづくりの推進を目指します。	発起自治体として研究会・カンファレンスへの参加	→	全国の食文化を切り口にした優良事例収集数	5件	4件	C	4件	H30開始

食文化創造都市にいがた推進計画 関連事業進行管理表(令和元年度)

【評価凡例】A:目標を上回った B:おおむね目標通り実施できた C:目標を達成できなかった D:事業を実施しなかった

施 策7 国際交流の促進											事業数:			5
ID	所属	事業名	概要(目的・内容)	工程		成果指標名	令和元年度			令和2年度	開始/終了年度			
				令和元年度	令和2年度		目標	実績	評価	目標				
44	産業政策課	新潟の食輸出商談会	市産農産物および加工食品の輸出促進を目的に、企業や農業者などを対象に海外食品バイヤーとの商談会を国内外で開催します。	→	→	商談会参加企業	海外への販路拡大支援企業・団体数(社・団体)92以上 ※No.42, 48, 49, 50合計で	海外への販路拡大支援企業・団体数(社・団体)69 ※No.39, 44, 45, 46合計で	C	海外への販路拡大支援企業・団体数(社・団体)69 ※No.39, 44, 45, 46合計で				
45	産業政策課	海外消費者ニーズ調査サービス	海外の消費者に好まれる食品や外食サービスなどの開発支援などを目的に、市内在住の外国籍市民をモニターとするテストマーケティング調査を実施します。	→	→	参加企業	海外への販路拡大支援企業・団体数(社・団体)92以上 ※No.42, 48, 49, 50合計で	海外への販路拡大支援企業・団体数(社・団体)69 ※No.39, 44, 45, 46合計で	C	海外への販路拡大支援企業・団体数(社・団体)69 ※No.39, 44, 45, 46合計で				
46	産業政策課	農産物輸出促進事業	小口流通システムの構築とインバウンドの拡大を図るため、海外市場の新規販路開拓や既存販路における販促活動などを実施することで、市産農産物の輸出促進を図ります。	→	→	<H29年度~> 新潟市産食材輸出促進アプローチ件数 <H30年度~> 新潟市産食材販路拡大アプローチ件数(件)	海外への販路拡大支援企業・団体数(社・団体)92以上 ※組織改編により指標変更	海外への販路拡大支援企業・団体数(社・団体)69 ※No.39, 44, 45, 46合計で	C	海外への販路拡大支援企業・団体数(社・団体)69 ※No.39, 44, 45, 46合計で				
47	食と花の推進課	食の国際見本市「フードメッセinにいがた」	「世界に貢献できる都市ブランドの構築を図る」ことを目的に、本市の拠点性を高めていくために、本州日本海側最大の食の国際見本市「フードメッセinにいがた」を開催し、食関連事業者に対して商談の場を提供します。	→	→	フードメッセ来場者数	来場者:10,600人	来場者:10,232人	C	来場者:10,600人				
48	食と花の推進課	食の新潟国際賞	世界における食の量と質を高め、食を通じた健康増進や世界の人々の福祉と平和に大きく貢献した人や活動に光をあて、隔年で表彰します。	→	→	食の新潟国際賞の開催準備または開催(隔年開催)	食の新潟国際賞の開催準備または開催(隔年開催)	食と健康フォーラム開催準備	B	食の新潟国際賞の開催準備または開催(隔年開催)	R元年「フードフォーカスinにいがた」より分離			

将来像3 食を通じて「産業」が繋がりに新たな魅力を創造するまち(施策8,9) 事業数: 18

施 策8 新たな挑戦への支援 事業数: 13

ID	所属	事業名	概要(目的・内容)	工程		成果指標名	令和元年度			令和2年度	開始/終了年度
				令和元年度	令和2年度		目標	実績	評価	目標	
49	産業政策課	食のマーケットイン支援事業(新潟IPC財団補助金)	食品製造業者などが抱える、売れる新商品の開発や、販路開拓といった課題を解決するため、専門家によるブラッシュアップや販路拡大計画の策定支援、補助金などのハンズオン支援を実施します。	→	→	支援事業者が設定した目標に対する達成割合(%)	90%以上	100%	A	90%以上	
50	産業政策課	食の商談促進事業(旧:食の域内取引支援事業)(新潟IPC財団補助金)	食品事業者の新販路開拓を支援するため、県内外のバイヤーを招聘し商談会を定期的に実施するほか、販売先が未確定の商品情報をバイヤーに提供し、商談の機会を探るニーズリサーチを実施する。	→	→	個別商談会のマッチング及びニーズサーチの実施件数	222件以上	189件	C	240以上	
51	農業活性化研究センター	6次産業化サポート事業	農業者の新事業展開を支援するため、相談やセミナーを実施するとともに、6次産業化・農商工連携に取り組む農業者などを対象に、加工機械・施設などの導入および販売拡大に対し助成します。また、6次産業化ネットワークの構築を進めます。	→	→	食品加工支援センターとの連携による農業者支援	8件	6件	C	6件	
52	食と花の推進課	食文化創造都市推進会議の運営支援	本市の魅力である「食文化」をさらに磨きあげ、市内外に広く発信し、交流人口の増加や地域産業の活性化を図るため、産学官民で設立した「新潟市食文化創造都市推進会議」の運営を支援します。	→	→	食文化創造都市推進プロジェクト申請事業数	13件	10件	C	10件	
53	北区産業振興課	「しるきーも」特産化事業	北区産さつまいも「しるきーも」の特産化を進めるため、生産振興、商品開発、販路拡大を一連の取り組みとして、農商工・産官学連携で実施します。	→	→	生産面積	3.5ha	3.1ha	C	3.5ha	
54	江南区産業振興課	梅の里産地活性化事業	江南区を代表する農産物である「藤五郎梅」の産地存続にかかわる価格の低迷、生産者の高齢化などの課題解決を図るため、商品開発、マーケティングなどを支援し、地域ブランドとしての価値の向上と産地の活性化を推進します。	→	→	1. 梅果実高品質化のための管理手法の確立 2. 梅加工品製品化数	1. 梅の糖度や香りから熟度との関係性を調査する。 2. 2品目(累計9品目)	1. 梅の糖度や香りと熟度との関係性が得られた。 2. 3品目(累計10品目)	B	—	R01終了

食文化創造都市にいがた推進計画 関連事業進行管理表(令和元年度)

【評価凡例】A:目標を上回った B:おおむね目標通り実施できた C:目標を達成できなかった D:事業を実施しなかった

55	西区農政商工課	くろさき茶豆の消費拡大及び生産地域の活性化に関する支援	西区のブランド枝豆「くろさき茶豆」の消費拡大や生産地域の活性化などに係る取り組みを、くろさき茶豆農工商連携協議会を中心に推進します。		・広告宣伝事業 ・販売促進事業 ・商品等の開発事業 ・生産地域の活性化事業	市内及び首都圏等向けPR実施回数(回)				15回	R02開始
56	西区農政商工課	いもジェンヌの生産拡大及び商品開発に関する支援【再掲】	西区内の砂丘地で生産されるさつまいも「いもジェンヌ」の需要増大への対応やブランド化を目的に、生産拡大や商品開発の支援などいもジェンヌ農工商連携協議会を中心に推進します。	・生産拡大に係る取組 ・消費拡大に係る取組 ・販路拡大に係る取組 ・商品等の研究開発に係る取組 ・地域活性化に係る取組	・生産拡大に係る取組 ・消費拡大に係る取組 ・販路拡大に係る取組 ・商品等の研究開発に係る取組 ・地域活性化に係る取組	作付面積の増加	作付面積21.0ha	作付面積19.97ha	C	市内及び首都圏等向けPR実施回数(15回以上)	
57	農林政策課	農業分野の規制緩和活用	新たな農業関連事業の展開を希望する事業者を支援するため、国家戦略特区の規制緩和などの制度を最大限活用し、企業参入の拡大、農家レストラン設置の支援などを行います。	・特区推進協議会での地元意見の集約 ・新たな特定事業者の掘り起し ・国への追加の規制改革事項の提案	・新たな特定事業者の掘り起し ・国への追加の規制改革事項の提案	1. 特例農業法人立上数(累計) 2. 農家レストラン設置数(累計) 3. 農業ベンチャー企業の設立数(累計)	1. 9法人 2. 4店舗 3. 9法人	1. 9法人 2. 3店舗 3. 9法人	C	1. 9法人 2. 4店舗 3. 9法人	
58	農業活性化研究センター	農業活性化研究センターにおける研究(伝統野菜の維持・保存)【再掲】	生産現場における栽培技術上の課題解決に向け、野菜・花き・果樹の栽培実証試験などを実施し、その中でナスやカブなどの伝統野菜の維持・保存を行うとともに、活用に向けた調査・研究を進めます。	→	→	大学等との共同研究数	5件	8件	A	5件	
59	農業活性化研究センター	農産物高付加価値化推進事業【再掲】	農業者の所得向上や農業振興を目的に、付加価値の高い商品開発を進めるため、農産物に含まれる様々な機能性成分や有用形質に着目し、科学的根拠を裏付けとした調査研究を行います。	○農産物高付加価値化プロジェクトの実施 ○大麦プロジェクト支援	→	地元産品の成分分析・調査、製品化支援	4件	7件	A	4件	
60	農林政策課	新潟市と東日本旅客鉄道(株)新潟支社との食に係る地域活性化連携協定	東日本旅客鉄道(株)新潟支社と新潟市は相互に連携し、①農水畜産物、日本酒を含む新潟市の食文化等の振興、②食に関わる生産者等と連携した観光、③食に係る市内の地域活性化、に取り組む。	・定期的な情報交換 ・プレスリリースの協力	・定期的な情報交換 ・プレスリリースの協力	プレスリリース協力回数	3回	1回	C	3回	
61	食と花の推進課	農産物販路拡大支援事業【再掲】	農産物販路拡大アドバイザーを活用し、販路拡大を支援するほか、販路拡大に意欲的な生産者の発掘・育成を目的に、セミナーを開催します。また、さらなる販路拡大のため、産地間連携出荷の拡大や大都市での販促活動を実施します。	・販路拡大アドバイザーとの連携 ・県や関係者と連携した大都市でのPR	・販路拡大アドバイザーとの連携 ・県や関係者と連携した大都市でのPR	農産物販路拡大支援団体数 <H30年度~>新潟市産食材販路拡大アプローチ件数(件)	国内40件	国内40件	B	新型コロナウイルス拡大の影響で目標設定が困難	

施策9 さまざまな分野への食の活用

事業数:

5

ID	所属	事業名	概要(目的・内容)	工程		成果指標名	令和元年度			令和2年度	開始/終了年度
				令和元年度	令和2年度		目標	実績	評価	目標	
62	食と花の推進課	12次産業化推進事業	本市が有する豊富で多様な田園資源を子育て・教育・交流など生活に密着する分野に活かす12次産業化の推進を図るため、12次産業化の普及・啓発に向けた取り組みを実施します。	農業と他分野との連携事業は普及してきたことから、今後は、全庁的に普及・定着が図られるよう、各部署の状況を把握、情報発信に取り組んでいく。	農業と他分野との連携事業は普及してきたことから、今後は、全庁的に普及・定着が図られるよう、各部署の状況を把握、情報発信に取り組んでいく。	農業と他分野の連携プロジェクト数	80件	86件	A	97件	
63	スポーツ振興課	新潟シティマラソン	みなとまち新潟の魅力を含んだコースを駆け抜けるマラソン大会「新潟シティマラソン」において、地域の食材を使用したエイド食を提供し、参加者へ本市の食の魅力を発信します。	→	→	エントリー者数	12,000人	台風19号接近の影響により中止	D	延期決定済	
64	スポーツ振興課	新潟シティライド	市内を自転車でする「新潟シティライド」のエイドステーションにおいて、地域の食材を使用したエイド食を提供し、参加者へ本市の食の魅力を発信します。	→	→	エントリー者数	750人	792人	B	中止決定済	
65	食と花の推進課	農・福連携事業	農業分野への就労を目指す障がい者の農業適性を判断するとともに、作業能力の向上を図るため、アグリパークで農作業訓練を行う。障がい者の就労促進と、労働力が不足する農業者へ新たな労働力としてマッチングし、持続可能な農業経営を支援する。	・農業作業訓練	・農業作業訓練	・障がい者施設へ作業委託する農家戸数	40件	24件	C	24件	
66	スポーツ振興課	新潟ヒルクライム	岩室温泉をスタートし、弥彦山スカイラインを山頂まで駆け上がるヒルクライムを開催し、参加者に岩室温泉街のランチを提供することで本市の食の魅力を発信します。	→	→	エントリー者数	550人	493人	C	300人	